

中学3年 外国語科「Our Project 7 記者会見を開こう」

柏市立大津ヶ丘中学校 河野 宏則

1. 単元目標

- 「導入・展開・まとめ」の構成や全体のまとまりを意識し、適切な言語材料を用いてスピーチの原稿を作成することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ◎構想や目的に合わせて、適切な手段・ツールを用いて必要な情報を収集・整理するとともに、情報モラルや情報の信頼性を考慮して情報を取捨選択することができる。(思考・判断・表現)
- 自分が伝えたい内容が相手に伝わるように視覚情報や抑揚などを工夫して表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ◎自分が伝えようとする内容や表現の仕方を客観的にとらえ、より良いパフォーマンスをするために修正・改善を図ろうとする。(学びに向かう力, 人間性等)

2. 情報活用能力育成をめざす単元づくり (全5時間扱い)

(1) 単元について

Our Project は、通常課を「扇の要」のように取りまとめたタスク活動となっている。input (学習) した内容をまとめた形で output (活用) することで、学んだ言語材料を実際に運用する力を高めることをねらいとしている。

Our Project 7 では、「特定の人の記者会見とそれに対する質疑応答」という場面を設定し、これまでに学習した言語材料を用いてスピーチ発表やインタビューのやりとりをする。この活動は、prepared speech と impromptu speech の両方を含んだ実践的なコミュニケーション活動である。

準備段階においては、単に英語で話すための準備・練習だけでなく、生徒が自分の発表や質疑応答の様子 (音声・映像) を記録して客観的に評価・分析したり仲間同士でアドバイスを伝え合ったりする機会を持ち、より良いパフォーマンスをするための修正を行うプロセスを充実させることで、メタ認知力や学習調整能力の向上を図る。

加えて、本課では、スピーチの原稿を準備したり実際に英語で表現や会話のやりとりをしたりする活動の中に、情報端末を用いて情報の収集・整理・表現・発信する活動を組み合わせることで、英語に関する資質・能力とともに情報活用能力を育成することを目指す。

(2) 学習計画

	時	学習内容	留意点
1 課題の設定	1	<ul style="list-style-type: none">○本課の目的・目標・トピックを理解する○モデルスピーチにふれて発表のイメージをつかむ○色々なスピーチ映像を視聴して評価する○評価の結果を共有する	<ul style="list-style-type: none">・スピーチ発表のルーブリックを Google Classroom で配付する・指導者が Google Forms で作成したアンケートでモデルの評価を行う・他者の発表を評価する活動を通じ、聞き手を惹きつける発表の仕方や工夫について考える

2 情報の 収集	3 整理・ 分析	2	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチ発表を行う人物・場面の設定や内容についての構想を練る ○Google ドキュメントでスピーチ原稿を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard で発表構想のマッピングを行う ・原稿作成時には CaLabo Language にプリインストールされているプレゼン基礎文章も参考にする ・原稿やスライドが完成したら Google Classroom で提出する ・完成した原稿のテキストデータを Google ドキュメントからコピーして CaLabo Language に入力する
		3	<ul style="list-style-type: none"> ○Google スライドでスピーチ発表の際に提示する補助資料のスライドを1～3枚以内で作成する ○原稿やスライドが完成したら発表の練習をする 	
		4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○CaLabo Language でスピーチトレーニングを行う ○本番に向けてペアで発表練習を行う ○自分の発表の動画を見て良い点と改善点を見出す ○発表の反省や相手からのアドバイスを生かして内容や表現方法を修正・改善する 	<ul style="list-style-type: none"> ・CaLabo Language の ID と PW は教師から事前に配付し、使い方を説明しておく（できれば年度初めが良い） ・ペアで発表練習を行う際、互いの発表の様子を1人1台端末で動画撮影して記録する ・終了後、お互いの良い部分や課題についてのアドバイスを伝え合う
4 まとめ・ 表現		5	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で発表をする役とインタビューをする役に分かれて本番の記者会見を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手は相手の発表を聴きながらメモをとったり、会見後に即興で簡単な質問やコメントを述べたりする ・各グループ内でベストスピーカーを選出する ・第1時で提示したルーブリックに基づいて Google Forms で評価する ・今後の学習や次のタスク活動につながるよう、指導者からのフィードバックを与える
5 振り返り・ 改善			<ul style="list-style-type: none"> ○各グループのベストスピーカーが全体に発表する ○相互評価・自己評価を行い、単元を通じての活動や成果をふりかえる 	



3. 本時について（本時4/5時間）

（1）本時の目標

- 自分が伝えようとする内容や表現の仕方を客観的にとらえ、より良いパフォーマンスをするために修正・改善を図ることができる。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点																		
導入 5分	<p>1. 【目標の確認】前時までの活動の進捗をふりかえり、本時の目標と学習活動の流れを確認する</p> <div data-bbox="268 405 1422 521" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>より良い発表にするために、自分のスピーチ発表の改善点を見つけて修正しよう</p> </div>	<p>●Google Classroomに提出されたスピーチ原稿を印刷し、本時の授業までに配付しておく</p>																		
展開 ① 5分	<p>2. 【個の学び／協働の学び①】ペア同士で原稿を読んで聞かせ合い、上手に読める部分とそうでない部分を確認する</p>	<p>●Google スライドの操作などはさせず、原稿内の単語や文章の発音・アクセント・イントネーションに焦点を当てて取り組ませる</p>																		
展開 ② 10分	<p>3. 【個の学び①】 CaLabo Language (ソフトウェアをインストールせずに WEB 上で利用できる英語スピーチトレーニングアプリケーション) を利用してスピーチトレーニングを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各自のスピーチ原稿のテキストデータから自動生成される英文の音声を聴いて発音やイントネーションを確認する <div data-bbox="252 1115 978 1440" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●モデルリーディングを参考にして CaLabo Language 上で発音を録音する ●録音した音声を自分で聴いたり、プログラムによる発音の分析・評価判定を参考にしたりしながら繰り返し練習する <div data-bbox="167 1704 1054 1765" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>録音した音声を再生して、自分の発音を客観的に聴くことができる</p> </div> <div data-bbox="167 1832 504 1928" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>項目別評価と総合評価が自動で分析・判定される</p> </div> <div data-bbox="252 1765 978 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <caption>項目別評価と総合評価</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価率</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>41%</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>発音</td> <td>23%</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>イントネーション</td> <td>45%</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>アクセント</td> <td>81%</td> <td>評価</td> </tr> <tr> <td>タイミング</td> <td>50%</td> <td>評価</td> </tr> </tbody> </table> </div>	項目	評価率	判定	総合	41%	評価	発音	23%	評価	イントネーション	45%	評価	アクセント	81%	評価	タイミング	50%	評価	<ul style="list-style-type: none"> ●原稿のテキストデータは前時までに Google ドキュメントからコピーして CaLabo Language に1文ずつ (または10秒以内の短いまとまりで) 入力しておく ●複数名で発表を行う場合も個人でスピーチトレーニングに取り組ませる ●各自の端末にヘッドセットを接続させて一斉に取り組ませる
項目	評価率	判定																		
総合	41%	評価																		
発音	23%	評価																		
イントネーション	45%	評価																		
アクセント	81%	評価																		
タイミング	50%	評価																		

<p>展開 ③ 25分</p>	<p>4. 【個の学び／協働の学び②】ペアでスピーチ発表を見せ合い、それぞれが改善した部分やさらに修正したい部分を見出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ●互いに発表を見せ合い、その様子を1人1台端末で動画撮影して記録する ●聴き手は、相手の発表に対するコメントやアドバイスを、発表を聴いてよく分からなかった部分などについての質問を述べる ●自分のスピーチ発表の映像を見て、より良いパフォーマンスをするために修正・改善を図る 	<p>●Google スライドの操作も含めて本番と同じように発表させる</p>  <p>【写真】 Google スライドを提示しながらスピーチをし、その発表を撮影する様子</p>
<p>終末 5分</p>	<p>5. 【本時のまとめ】本時の学習活動の成果や課題をふりかえって自己評価アンケートに回答し、次時に向けての見通しを持つ</p> 	<p>●Google Forms の自己評価アンケートへのリンクを Google Classroom で配付しておく</p> <p>※アンケートの集計結果をクラスごとに確認したい場合は、あらかじめ Forms のファイルをコピーして分けてから配付する</p>

(3) 情報活用能力のプロセスと育成を図るポイント

課題の設定	情報の収集	○	整理・分析	◎	まとめ表現	振り返り改善
-------	-------	---	-------	---	-------	--------

○情報収集のポイント

- ①それぞれのスピーチの構想に基づいて、必要な情報を効率よく収集する。
例えば、スピーチでなりきる人物についての情報や、スピーチの場面設定に応じた情報、伝えたい内容を英語で表現するために役立つ言語材料などを、教科書・辞書・インターネット等を通じて収集する。
- ②情報を収集する際、最新の情報であるかどうか、正確な情報であるかどうか、自分の目的に合致するかどうかなどに留意させる。
- ③インターネット上にある情報を収集する場合、知的財産権に配慮して著作者の利益を侵害しない範囲で用いることや出典を明記することを再確認する。

○整理・分析のポイント

- ①スピーチの目的、場面、内容等に応じて情報を整理し、どのように自分のパフォーマンスに取り入れるかを判断する。
 - ②複数の情報を関連付けたり、情報の順序を再構成したりして、発信の仕方を工夫できるようにする。スピーチの内容に関する情報は必ずしも英語で表されるものではないため、それを英語で表現するための情報（言語材料や発音の仕方等）と組み合わせることで、まとめ・表現につなげる。
- ※実際の活動においては、「情報収集」～「整理・分析」～「まとめ・表現」の過程を繰り返しながら原稿テキストやスライドを作成することになる。

実践を終えて

今回の学習活動の事前および事後に実施したアンケートにおいて、コンピュータや情報を活用する力の自己評価を問う設問に対する回答を比較した結果、有意な変容が見られたのは次の3項目であった。(※各設問内容の後の値は肯定的回答の割合)

- ①「目的に合わせて必要な情報を検索・収集できる」【前】89% ⇒ 【後】97%
- ②「コンピュータやネットワークを活用して得られた情報を、情報モラルや情報の信頼性に配慮しながら適切に取捨選択して活用することができる」【前】65% ⇒ 【後】73%
- ③「コンピュータやアプリケーションを効果的に活用して、情報を整理して伝えたりプレゼンテーションをしたりすることができる」【前】70% ⇒ 【後】92%

また、事後アンケートで、「今回の学習活動を通じてコンピュータやアプリケーションを活用する力が高まったか」という設問に対し、「はい」と回答した生徒の割合は93%であった。

これらのアンケート結果はあくまでも生徒の主観による回答であるが、今回の学習活動を通じ、多くの生徒が情報活用能力の向上を実感できたということは一つの成果であると考えられる。

また、「1人1台端末の活用によって、学習活動にどのような効果・利点があったか」という設問に対しては、「スピーチのアイデアに必要な情報や資料となる素材をインターネットから手軽に入手できるのが役立った」「スピーチの原稿やスライドを友達と共有して作業を進められるのが役立った」「CaLabo Languageでは単語だけでなくオリジナルの英文も発音のお手本が聴けるので助かった」「CaLabo Languageでは自分の発音に対してアプリが評価をつけてくれるのでゲーム感覚で練習できた」「CaLabo Languageでのスピーチトレーニングで英語の発音やイントネーションが上達した」「動画撮影や画面録画などで自分のスピーチを客観的に見られることが発表の改善に役立った」「教科書や辞書を持ち帰らずに自宅でも作業を進められるのが便利だった」などといった回答があった。

この他、授業者の立場からも、1人1台端末の導入によって教材の配付や提出を全てオンライン上で完結させることができる点や、進捗状況の確認が容易にできる点、アンケートを実施するだけで集計結果が即座に確認できる点など、様々なメリットがあった。

ただし、1人1台端末を活用して原稿を作成する際に、紙の辞書代わりにインターネットで英単語を調べる程度であれば便利ではあるが、日本語から英語に文章を翻訳するツールとして用いることは生徒にとってマイナスになってしまう部分も多いため、注意が必要である。

CaLabo Languageによる学習効果を高めるための周辺機器としては、1人1台端末のイヤホンジャックに接続できるヘッドセット(イヤホン+マイク)を全員に配付しておく(または用意させておく)ことが有効である。全員がヘッドセットを用いることで、生徒は周囲を気にせず自分のスピーチの録音を聴いたり、録音したりできるようになり、CaLabo Languageによる発音評価の精度も高まる。単なるイヤホンのみでマイクが付いていないものを使用した場合、生徒がスピーチトレーニングを行う際には端末のマイク部分に顔を近づけて発音する必要が生じるため、やはりマイクと一体になっているものを用いることが望ましい。